【学校教育目標 「美しく かしこく たくましい 深江っ子」の育成】



学校だより 諏訪の森タイムス

第21号

令和 6 年 2 月 15 日 南島原市立深江小学校 校 長 末吉 優

本年度最後の授業参観・学級部会となります

2月9日(金)、4·5年生の最後の授業参観と学級部会を行い、たくさんの保護者の皆さんの 来校がありました。学習発表会を行い、今の学年での学習成果や成長の足跡を披露することが できたようです。22日(木)は6年生ありがとう集会、そして6年生学年部会が予定されています。



また、29日(木)は1~3年生の授業参観・学級部会となります。それぞれの学年における自分のあゆみを確かめ、家族、友達、地域の方々等、関わってもらった人への思いや感謝を抱いてもらったら幸いです。4月には、一学年進級します。

6年薬物乱用防止教室より I月29日(月)

深江布津ライオンズクラブの喜多様、吉田様を講師にお迎え し、6年生の薬物乱用防止教室を行いました。

子供たちがこれまで知らなかった知識を、具体例を交えて丁寧に教えてくださいました。また、5億分の1の命として授かった





「自分の命」を大切にしていく気持ちを抱く大切な機会となりました。(下記は児童の感想抜粋)

- □ 薬物を乱用する人は多くないと思っていたけれど、想像以上にいると聞き、とても怖く
 - なった。誘われることもあるので、用心したい。自分の生き方は、自分で変えてしまうから注意したい。 フ 6年間のうちに薬物の怖さを知ることができてよかった 怪我をしたら治るけど 薬物は1回でもしたら治らなり
- □ 6年間のうちに薬物の怖さを知ることができてよかった。怪我をしたら治るけど、薬物は1回でもしたら治らないので、命は 大切にしようと思う。講師の話を聞いて、薬物は絶対にしたくないと思った。薬物の世界に入らないように気を付ける。
- □ 薬物はあまり重く見ていなかったけど、国によってはとても重い罪となる国もあり、社会的な問題なんだと思った。クッキーなどに薬物を混ぜてだます人は、同じ人間としてありえないと思う。
- □ 吉田さんは、薬物の基礎情報を教えてくださった。喜多さんは、実体験をもとに話してくださり、とても分かりやすかった。薬物は1回でもするとやめられないというのが怖い。命の大切さを知り、長生きできるよう頑張りたい。







2年 岩永

入賞者の紹介 (敬称略) おめでとうございます

第22回南島原市セミナリヨ現代版画展 <2月17日(土)~25日(日) ありえコレジョホールにて開催>

 □特選 1年 上田
 川田
 榊
 佐藤

 4年 泉
 伊藤
 5年 小嶺

 □入選
 1年本田
 吉田
 高原

 2年永野
 今村
 大鳥
 川嶋
 水田
 水田
 吉永

 3年 喜多
 演本
 森下
 吉永

 5年 池田
 柿田
 高原
 高柳
 竹田

□第4部門(グループ作品)入選 なかよしチーム、生きものチーム、しゅみチーム、お花チーム

深江ブループロジェクト 第3弾 魚料理教室より 2月8日(木)

日頃の学習の成果をアマモ新聞(第2弾)にまとめ、地域の事業所に掲示させていただいています。









2月8日(木)は、プロジェクトの第3弾として、深江の漁場で育った魚・海産物を使った調理教室が行われました。

初めて生の魚に触る児童も多く、恐る恐るさばく姿もありました。各班にお母さん方がついて手ほどきをされ、会話をしながら笑顔で調理しました。メニューは、「くつぞこ飯、アオサのみそ汁、カワハギの煮付け、コウイカとワカメの酢味噌あえ、ヒジキと大豆のサラダ、車エビの塩焼き」で豪華でした。ご飯やみそ汁を何杯もお代わりする子供もいて、おなかも満たされたようでした。この一年間取り組んできた、「深江ブループロジェクト」のまとめにふさわしい活動だったと思います。プロジェクトは、継続して実践されることでしょう。

御指導いただいた漁協・地域の方々に感謝申し上げます。









6年高齢者疑似体験(社会福祉教育)より 2月8日(木)

南島原市社会福祉協議会深江支所長:吉田様、介護支援専門員:長谷川様はじめ、合計6名のスタッフの皆様により、高齢者疑似体験教室を開催しました。

高齢者疑似体験は、体に重りを付けたり、膝にサポーターを巻いて膝の曲げ伸ばしに負荷をかけたり、めがねをかけて見えにくくしたりして、お年寄りの体を体験することで、高齢者の体における「大変なこと」「できないこと」等を感じ、今後困っている高齢者を見かけた際に「どのように接すれば良いのか」ということを考えるものです。

また、車椅子に乗り、マットを段差のある障害物を想定して動かしたり、実際の介助を体験したりしました。なかなか、思うように操作できず、悪戦苦闘していました。 <体験後の児童の感想>









- □ 重りをつけ、膝が曲がらないようにサポーターを付けると、バスケットのシュートが思うようにできなかった。 お年寄りは不自由さを感じていると思う。
- □ 自分が思っていた以上に高齢者の体は大変だった。高齢者のために自分にできることを探したい。
- □ お年寄りは体が思うように動かなくて普通の生活でも大変なことが分かった。自分たちにできることは、 お手伝いしたい。